

平成28年度

橋梁技術発表会及び講演会

会場 北海道経済センター
8F Aホール

〒060-8610 札幌市中央区北1条西2丁目
Tel.011-231-1355

参加費無料
定員 **200**名
申込先着順

平成28年

日時 **11/2** (水) **13:00~16:50**

13:00~13:10

開会の辞

北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会
委員長 松本 高志

13:10~13:25

橋建協報告

『熊本地震に対する橋建協
一斉点検調査』報告 (※)熊本地震調査WG

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.橋台ジョイントレス構造の設計も
これでスッキリ!

～鋼-コンクリート接合部の設計方法について～
(※)設計小委員会 設計部会 岑山 友紀

14:05~14:15

休憩

14:15~14:55

2.ハノイ市民が誇る新たなランド
マーク、ニャットン橋建設工事報告

～世界にも珍しい6径間連続合成斜張橋の建設工事秘話～
(※)海外事業展開特別委員会 松野 憲司

14:55~15:35

3.大支間鋼単弦ローゼ桁の送り出し架設
～送り出し支間147mの鋼・PC混合3径間連続
アーチ橋の架設～

(※)架設小委員会 架設部会 村岡 和郎

15:35~15:45

休憩

第2部:特別講演会

15:45~16:45

平成28年熊本地震による構造物
の被害、復旧・復興に向けて

熊本大学大学院
先端科学研究部 教授
松田 泰治



16:45~16:50

閉会の辞

(※)橋梁技術発表会 実行委員会
委員長 上原 正

(※)は、(一社)日本橋梁建設協会

申込方法

- ① Fax. 011-261-2427 (鋼道研)
② ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで
(受付は平成28年9月21日~10月19日)

申込期限

平成28年10月19日(水)

連絡先

鋼道路橋研究委員会 講習・講演小委員会
担当 小笠原 TEL 011-241-4948
日本橋梁建設協会 北海道事務所
担当 寺島 TEL 011-232-0249

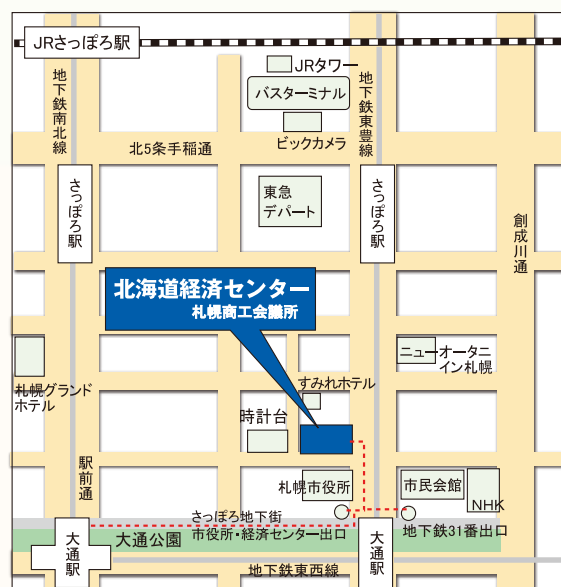
継続教育

土木学会認定CPD(継続教育)プログラム(予定)

※東京地区は 10月14日(金) 銀座プロッサムホール
大阪地区は 10月21日(金) ドーンセンター
中部地区は 10月28日(金) 東建ホール
東北地区は 11月11日(金) 仙台国際センター
九州地区は 11月18日(金) レソラNTT夢天神ホール 開催です。
(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿(論文、PPT)は、当日配布をして
おりません。ホームページに掲載しますので、各自ダウンロードして
持参して下さい。

アクセス



- 地下鉄南北線・東西線大通駅より 徒歩7分
- 東豊線大通駅より 徒歩2分
- さっぽろ地下街北大通西2丁目「市役所・経済センター出口」より 徒歩1分

1 橋台ジョイントレス構造の設計もこれでスッキリ！

～鋼-コンクリート接合部の設計方法について～

橋台部ジョイントレス構造の鋼桁と鉄筋コンクリート橋台接合部(鋼-コンクリート接合部)のずれ止めとして一般的に用いられる頭付きスタッドは、曲げモーメントを受ける部位での耐力特性が不明であり、地震時挙動に対する知見や具体的な照査方法は確立されていない。本発表では、鋼-コンクリート接合部を対象に、その抵抗特性の把握、要求性能を満足させる照査方法および構造細目の確立を目的に実施した試設計と3次元弾塑性解析について報告する。

2 ハノイ市民が誇る新たなランドマーク、ニャッタン橋建設工事報告

～世界にも珍しい6径間連続合成斜張橋の建設工事秘話～

ニャッタン橋は、ベトナム国ハノイ市中心部からノイバイ空港を繋ぐ環状2号線の一部として、紅河に架かる橋梁で、ベトナム北部地域の物流の効率化と交通渋滞緩和を目的に、日本のODA(STEP:本邦技術活用条件)により建設された。

本橋は紅河上に架かる1,500mの6径間連続合成斜張橋の主橋と1,580mのPCスーパーT桁とPC箱桁構造の取付け橋を含む全長3,080mの橋梁である。

本発表では上部工工事のうち世界的にも珍しい形式である6径間連続合成斜張橋の主橋部工事について報告する。

3 大支間鋼単弦ローゼ桁の送り出し架設

～送り出し支間147mの鋼・PC混合3径間連続アーチ橋の架設～

本橋は、新名神高速道路 四日市JCT～亀山西JCT(仮称)間の路線に建設される橋長325mの鋼・PC混合3径間連続アーチ補剛箱桁である。

現地は、二級河川朝明川上を横断する国道365号バイパスの上に位置する条件から、中央径間の鋼単弦ローゼ部を夜間通行止めの交通規制を伴う、送り出し工法および降下により施工を行った。施工における問題点および対処法として、送り出し支間147mに対する手延べ機先端のたわみ量は約6mとなるため、たわみ処理作業にかかる夜間交通規制時間への影響が懸念された。対処法として送り出し支間内の道路上に多軸台車を用いた一夜ベントを設置し、手延べ機のリフトアップを行うことにより、たわみ量および到達時の処理時間の減少を図った。

特別講演会

平成28年熊本地震による構造物の被害、復旧・復興に向けて

一略歴一

1981年 九州大学 工学部 土木工学科 卒業
1983年 九州大学大学院 工学研究科 博士(前期)課程 土木工学専攻修了
1983年 (財)電力中央研究所 研究員
1994年 九州大学助教授 工学部
(1997年～1998年 米国スタンフォード大学客員研究員)
2004年 熊本大学教授 工学部
2006年 熊本大学大学院教授 自然科学研究科
2015年 減災型社会システム実践研究教育センター センター長
2016年 熊本大学大学院教授 先端科学研究部

一学会・社会での活動一

土木学会地震工学委員会委員(1999年～)
土木学会西部支部幹事長(2006年)
橋梁の長寿命化修繕計画策定検討委員会委員 熊本県(2007年～2012年)
学術システム研究センター研究員 日本学術振興会(2009年～2012年)
緊急災害対策派遣ドクター(TEC-DOCTOR)国土交通省(2011年～)
九州橋梁・構造工学研究会理事(2011年～)
九州支社技術コンソーシアムアドバイザー委員 西日本高速道路(株)(2013年～)
九州地方整備局 総合評価技術委員会委員 国土交通省(2014年～)
熊本地震道路復旧検討PTT構成員 国土交通省(2016年～)
熊本地震橋梁災害復旧技術検討会委員 西日本高速道路(株)(2016年～)
熊本市震災復興検討委員会委員 熊本市(2016年～)

松田泰治

熊本大学大学院
先端科学研究部 教授

講演概要

平成28年熊本地震では日奈久断層と布田川断層で二度にわたる大きな地震が発生し、震度7を2回記録した。127年もの長い間、大きな地震の洗礼を受けていなかった熊本地方では、地震により家屋やビルの倒壊し、高速道路や一般道、新幹線や在来線が寸断され、電力、ガス、水道などのライフラインも停止して、甚大な被害が発生した。本講演では震災直後から現地で見てきた道路や橋、建物などの構造物が受けた被害の概要と、復旧・復興に向けての今後の課題等について概説する。

FAX番号:011-261-2427

平成28年度

11月2日(水)

橋梁技術発表会

[北海道地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無